

PRESS
RELEASE



国立大学法人
徳島大学

弥生時代前期の農耕関連遺構（用水路列または畑跡）発見について

徳島大学埋蔵文化財調査室は、4月9日からの蔵本キャンパス内の大塚記念講堂改修予定地内における、庄・蔵本遺跡の発掘調査において、弥生時代前期の農耕関連遺構を発見しました。

昨年度の藤井節郎記念医科学センター建設に伴う発掘調査において、弥生時代前期の水田跡を発見しましたが、この度の現場は、50mほど北西に位置します。

幅1.5mほどの溝と畝または畦状の高まりが、それぞれ4列ほど連続しており、用水路が連続しているものか畑跡ではないかと考えられます。

● 弥生時代前期の農耕関連遺構（用水路列または畑跡）

蔵本キャンパスに位置する庄・蔵本遺跡は、県下最大の弥生時代前期（初期水田農耕集落）です。1980年代から発掘調査を継続してきておりますが、今までに、集落、墓、畑、用水路など、日本列島における初期水田稲作の実態を知る上で重要な発見を繰り返して参りました。

このたび、大塚講堂改修に伴う発掘調査において、弥生時代前期の農耕関連遺構（用水路列または畑跡）を検出しました。

遺構は、弥生時代前期終わり頃の洪水によって埋没しておりました。用水路とみられる幅1.5mほどの溝と、同じく幅1.5mほどの畦畔・または畝がそれぞれ4列ほど連続している様相を確認できました。

昨年度の藤井節郎記念医科学センター建設に伴う発掘調査において、弥生時代前期の水田跡を発見しましたが、この度の現場は、50mほど北西に位置します。その水田面より10～20cmほど高い場所でみつかっており、水田に水を配置するための施設と考えられ、また、畑の可能性も考えられます。今後土壌を分析するなどして、慎重に機能を断定していきたいと考えます。

庄・蔵本遺跡は、眉山の麓に集落と墓が位置し、その縁辺に畑があり、外縁部に灌漑用水路と水田跡が展開します。今回は、その水田域の外縁部に位置します。このような集落の全体像が復元しえる遺跡は、全国的にもほとんどありません。

現地は調査後埋め戻され、大塚記念講堂の増築部分となります。これほど良好な形で残された農耕関連遺構を見学できる機会のはめったにありませんので、是非見学いただきたいと思えます。

6月1日（金曜日）13時30分より、現地にて案内いたしますので、詳細はご連絡ください。

なお、一般向けの現地説明会は、6月2日（土曜日）午前10時～12時に行います。

お問い合わせ先

○徳島大学埋蔵文化財調査室

室長・准教授 中村 豊

〒770-8503 徳島市蔵本町 2-50-1

tel:090-4504-1903

[E-mail : yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp)